

令和7年度 観光DX推進による地域活性化モデル実証事業 ①地域活性化の好循環モデル

「若狭漁村まるごとホテル」

中間支援・過疎観光地域活性化モデル事業 事例紹介

(一社) 若狭三方五湖観光協会

海と湖に育まれた「漁師民宿」

福井県若狭町

ラムサール条約登録湿地「三方五湖」と、リアス式海岸「若狭湾」が織りなす豊かな景観が最大の魅力。古くから朝廷に食材を献上した「御食国（みけつくに）」として、都の食を支えた食文化を持つ。

宿泊施設は63軒。そのうち多くが漁業と宿泊業を兼ねる「漁師民宿」であり、それらが車で10分圏内の常神半島エリアに集中立地する稀有な地域である。

※漁師民宿数が日本最多（漁業センサス2023）、福井県としても最多
⇔資源・文化としての「漁師民宿」



63軒

宿泊施設（漁師民宿）

約60万人

年間宿泊者数（リピーター多数）

食、海湖の幸の供給地

「御食国」、日本最古の「過所船旗」などの歴史

漁師民宿が抱える、IT活用の壁



① 漁業と宿泊業の兼業・IT活用の不足

兼業であることに加え、家族経営が中心で、高度なデジタルツールを使いこなす人的リソースに限界がある。



② OTA未活用・販路機会の損失

宿泊予約や販促にはOTA活用が不可欠だが、自社での導入・運用が難しい。



③ 外部委託費・手数料の域外流出

高額な費用をかけて外部にDX支援を委託し、OTA手数料も地域外へ流出。



④ 地域一体のブランド訴求不足

個々の事業者が個別対応に追われ、地域全体としての魅力発信ができていない。

DXを進めるほど経費がかさむ — この「ジレンマ」が、当地における「導入」に際する従来の最大の障壁でした。

観光協会が中間支援を担い、事業者の負担を軽減

1

個々の事業者に高度なデジタル技術習得を求めるのではなく、観光協会が予約管理・情報発信等を支援・代行する体制を構築

2

地域全体で共通の予約管理システム（PMS・サイトコントローラー・）を導入し、業務効率化とランニングコスト削減を実現

3

地域内でデジタル人材を採用し、従来は地域外に委託していた業務を内製化 — 地域内の売上・雇用の創出につなげる

事業目標

事業者に負担を強くない高収益化

KGI（域内経済効果）

2,200万円

KPI（共通システム導入軒数）

30軒

対象：若狭三方五湖観光協会 登録宿泊事業者 63施設

コンソーシアムを柱とした、地域一体の支援モデル



事業者への支援は「地域人材による手厚い伴走支援」と「外部人材による専門スキル支援」の両輪で実施。
システム導入だけでなく、地域共通販促を通じて域内業務効率化と新規旅行者の獲得を狙う。

PMS・サイトコントローラー・直販機能を一体で導入

PMS（宿泊管理システム）・サイトコントローラー・直接予約機能が一体となったシステムを地域共通で採用。
主要OTAに幅広く対応し、宿泊予約と在庫管理を一元化する。



客室管理

客室タイプ・プランを登録



予約情報管理

予約情報をリアルタイムに集約



顧客管理

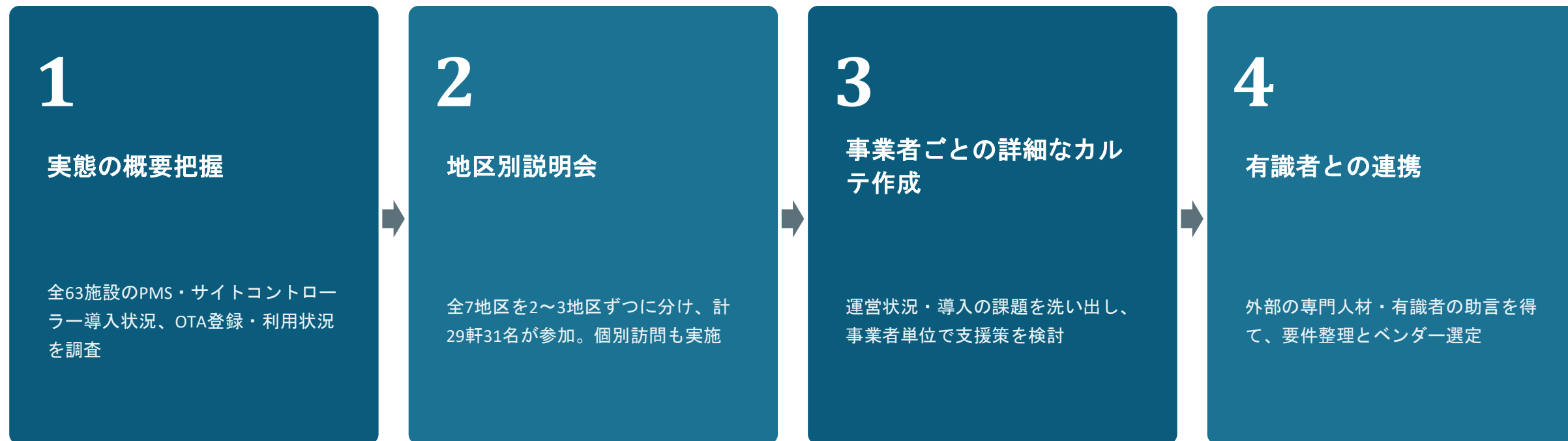
宿泊履歴・アレルギー等を蓄積



売上管理

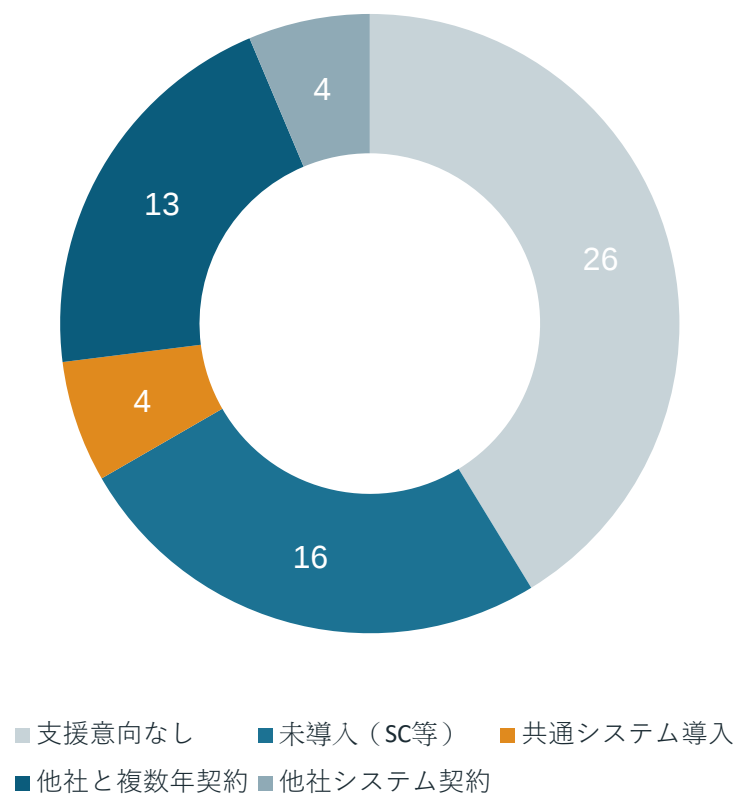
請求書・領収書を自動出力

丁寧な伴走支援が必須



地区別説明会では「月額費用の負担感」「操作への不安」の声がある一方、「作業負担の解消」への期待も確認できました。

63施設の内訳と、共通システム導入の実績



KPI：若狭共通システム導入軒数

4 軒 / 目標 30 軒

進捗率 13.3%

他社ベンダーと最長5年の複数年契約を結ぶ宿が13軒あり、実証期間中の切り替えが困難であったことが、導入軒数が伸び悩んだ主な要因。一方、事業承継等の課題により積極的な支援を求めない宿も26軒存在することが新たにわかりました。

地域サイト「漁師の宿帖」整備

地域サイト・データ分析など

地域一体のブランド訴求

【地域サイト概要】

■ 基本情報

ドメイン：ryoshi-yadocho.com

サイト名：『漁師の宿帖』（りょうしのやどちょう）

■ 機能・コンテンツ

宿泊予約機能

漁師民宿一覧（宿泊施設の紹介）

若狭の漁村の詳細（歴史・文化等）

旬のピックアップ情報（カニ・フグ・アオリイカ）

目的・地域別の情報発信

Instagramを活用した情報発信

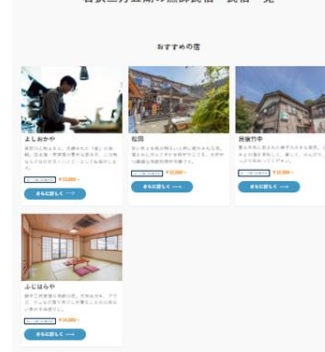
Meta広告（Instagram・Facebook等）の運用

■ コンセプト

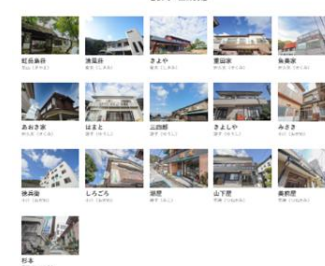
「若狭・漁師宿の魅力」「共同漁」という漁村文化と、
「その日に使う分だけを獲得」というサステナブルな漁の哲学の体感。



若狭三方五湖の漁師民宿・民宿一覧



若狭の漁師宿



若狭・漁師宿の魅力



若狭の漁師宿「若狭の漁師宿」の魅力



若狭の漁師宿「若狭の漁師宿」の魅力



若狭の漁師宿「若狭の漁師宿」の魅力



若狭の漁師宿「若狭の漁師宿」の魅力



若狭の漁師宿「若狭の漁師宿」の魅力



若狭の漁師宿「若狭の漁師宿」の魅力

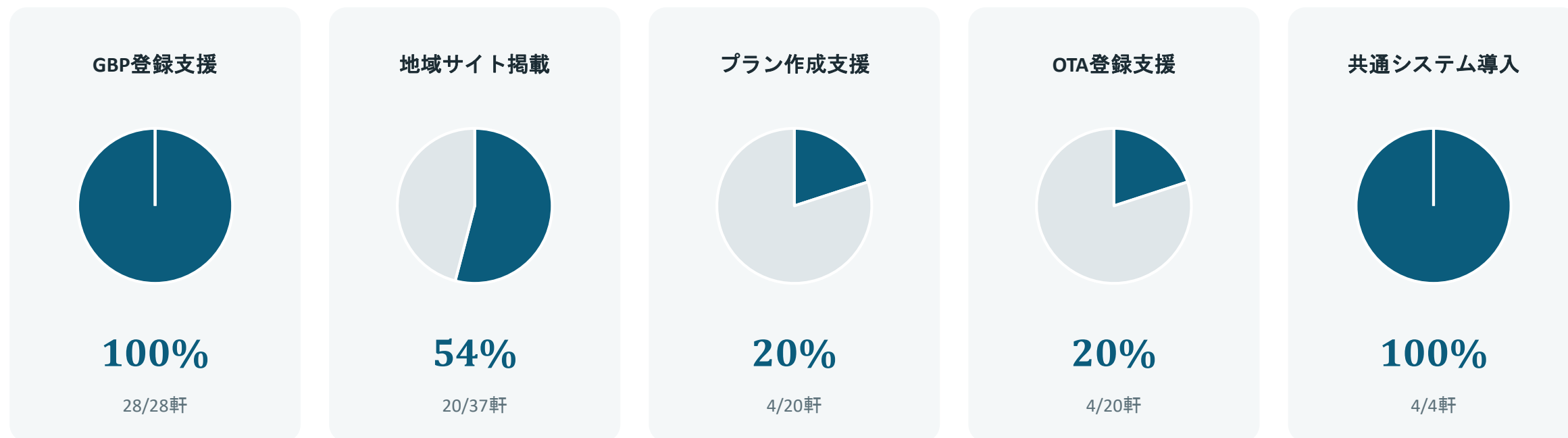


若狭の漁師宿「若狭の漁師宿」の魅力

- ・トップページ動画
- ・漁師民宿一覧
- ・若狭の漁村の詳細（歴史・文化紹介）

共通システム導入が難しい宿にも、関連する支援を実施

共通システム導入以外にも、直販支援などを通じて収益向上支援を実施しました。



■ 支援実施 ■ 対象宿数（母数）

※ 対象宿数は項目ごとに異なります（割合は各項目内の比較）。

実証期間における収益向上の兆し

KGI：域内経済効果

2,383

万円

目標 2,200万円 に対し 108.3%

※直販強化・OTA支援・共通システム導入による予約額と、域外流出手数料の抑制効果の合計

共通システム導入宿（4軒）の売上比較（12～1月期）



前年同期比 **110.7%**

4軒合計で約134万円の増収

147,250円

実証期間中に抑制できた、域外流出手数料の内部留保分

「作業時間の短縮」と「地域で考える視点」の芽生え

請求書・領収書作成の時間短縮

約5分／件

1日あたり 25～50分 の業務負担軽減

手書きでの手計算作業がなくなり、売れ筋商品（オプション・お土産等）の可視化にもつながった。

“

「PCによる請求書・領収書作成は初めての経験で不安もあったが、操作に慣れ、大幅な時間短縮を実感している」

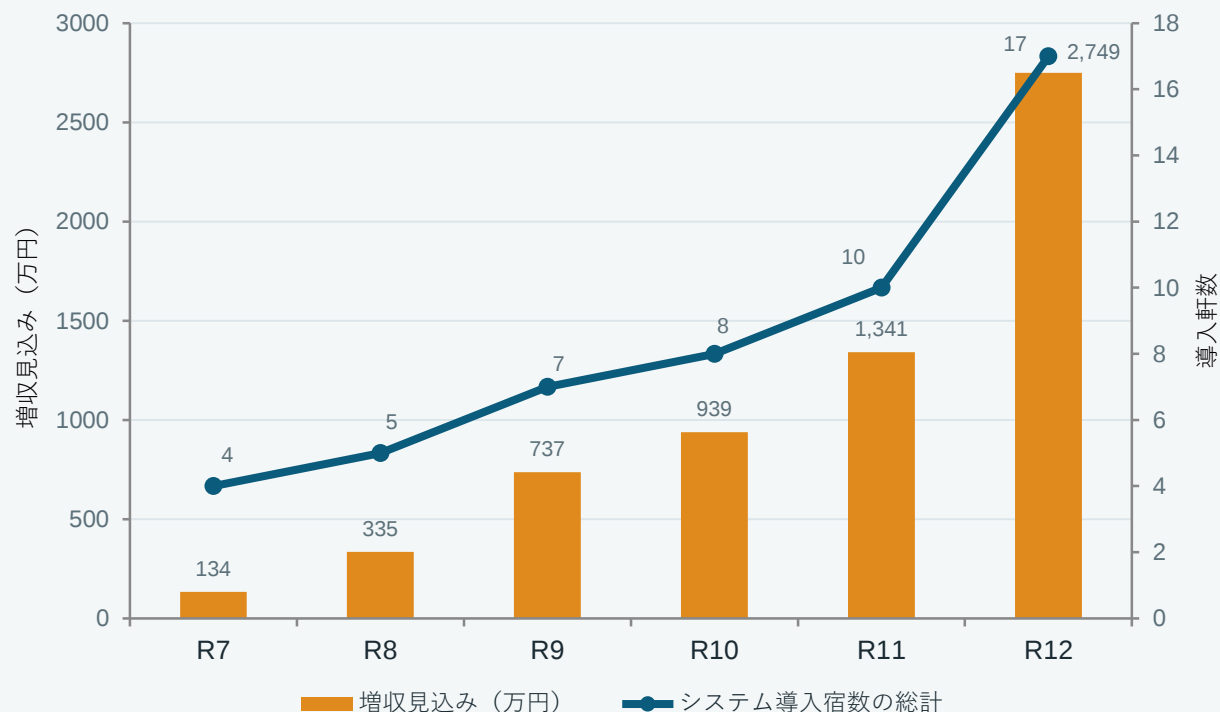
“

「これまで地域外の事業者にプラン作成を委託していたが、観光協会による支援へ切り替え、改めて自宿の魅力を再発見できた」

宿ごとの「個別最適」から、地域としての「全体最適」へ——事業者間で課題を共有し合う機運が生まれました。

導入軒数の拡大が、地域全体の増収効果を押し上げる

共通システム導入宿数と増収見込みの推移



今後の重点方針

- 共通システム導入を推進
- システム運用を地域人材が担ということ
- 地域サイトの売上連動や中間支援機能の事業化で財源を確保
- 導入済み宿の成果を可視化し、他の事業者への波及を狙う

導入軒数が10軒を超えると、地域内でおよそ1,000万円を超える増収効果が見込まれます。

その後の取組について

実証事業終了後も、2本の柱で取組みを継続・拡大しています。

I

共通システム導入施設拡大

共通システムを導入する宿を増やし、予約データの蓄積とサポート体制の強化を進める

- システム基盤の整備
- 課題・ボトルネック把握
- 導入メリットの創出
- 未導入施設へのアプローチ

II

新たな取組：運営サポート拡大

実証事業にはなかった新たな取組として、他社ベンダー利用施設にも予約管理・販促支援を拡大

- 運営サポート
- 新プランの販売開始
- OTA活用策の立案
- 新たな施設へのアプローチ

導入施設を増やすための、4つのアクション



① システム基盤の整備

予約流入経路（自社サイト経由／地域OTA経由）の判別管理機能を構築（夏リリース予定）



② 課題の把握

導入4宿へのヒアリング&意見交換会を実施し、その結果を踏まえた操作説明会なども実施



③ 導入メリットの創出

体験・イベントとの連携スキームを検討。データ充実に向け、導入施設へのフォローを強化

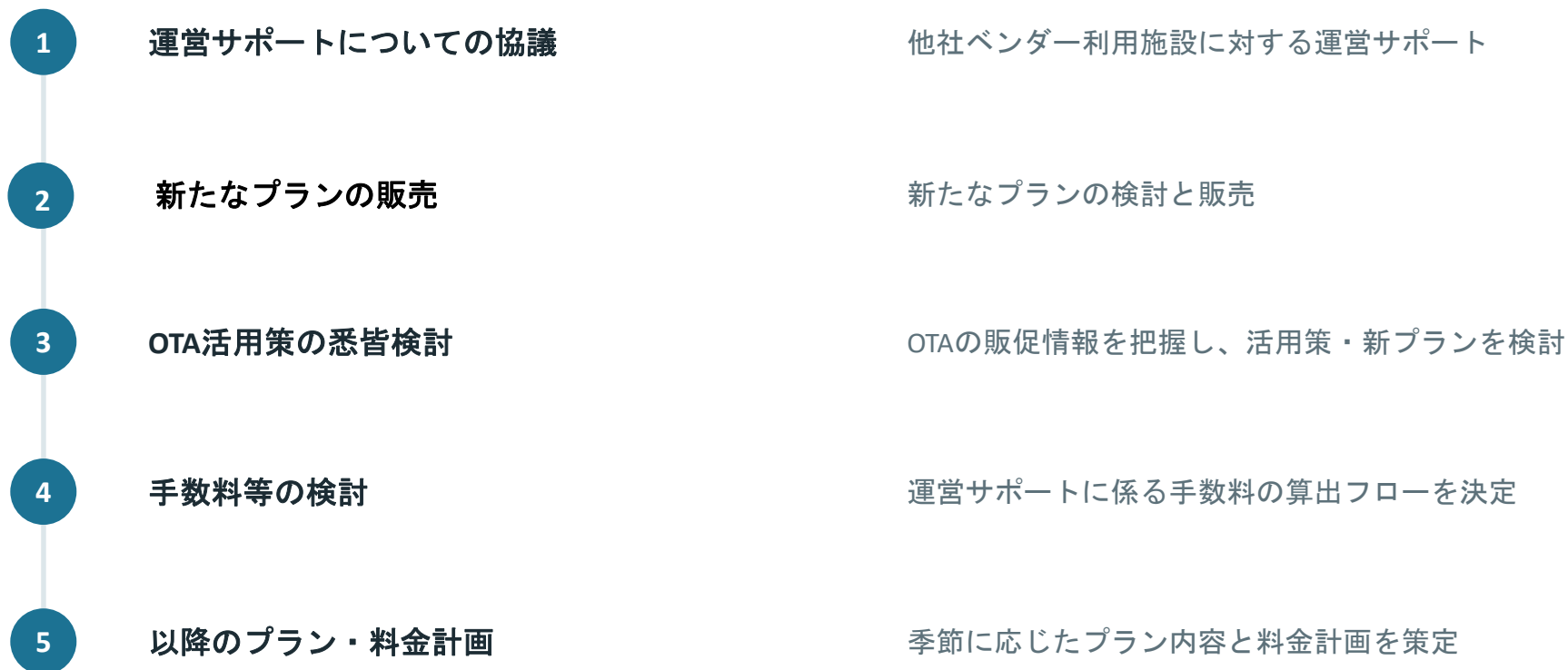


④ 未導入施設へのアプローチ

導入メリットの可視化と成功事例の明示。成果を踏まえた説明会の実施を検討

共通課題：支援を要する「その時」に頼れるサポート体制を構築できるか…。

他社ベンダー利用施設への運営サポート



拡大に向けて、次に向き合うべき課題



サポート体制の構築

「その時」に頼れるサポート体制の整備



データの充実

導入施設へのフォローを強化し、分析に耐えるデータ量を蓄積する



成果の可視化

成功事例を明示し、未導入施設・他社ベンダー利用施設への波及を図る



新規施設への展開

共通システム導入・運営サポート導入とも、新たな施設への継続的なアプローチを推進

実証事業を土台に、共通システム導入拡大と運営サポート拡大をあわせて進めます。

「DX」と「ローカル」をつなげるということ

共有の力

価格戦略・販路・顧客データを共有し、
「地域で経営を考える」意識が醸成され
つつあること

「DX」と「ローカル」

「DX」利活用の重要性を、ひとつひとつ、
「ローカル」の事業者に伝えつなげること
が、観光協会の最も大切な役割

横展開の可能性

収益の地域内循環と雇用創出を両立する
「地域自走型モデル」としての横展開の
可能性